

7月のイベントは「駄菓子屋ぶんちゃん」 「画材を購入して絵を描いてみよう」でした



7月のイベントは「駄菓子屋ぶんちゃん」と「画材を購入して絵を描いてみよう」の2本立て。

7月23日は土用丑の日。この日に「う」のつく食べ物を食べると夏バテしないと言われています。ということで「う」のつくお菓子「うまい棒」を中心にいろいろな駄菓子を文具のなる木の前で販売しました。お子様から大人の方までいろいろな年代の方にお楽しみいただきました。土用丑の日といえば「うなぎ」ということで、「う」はつきませんが蒲焼さん太郎もありました(笑)



そしてもう1つ、8月にはサマフェス、パイロットのフォトフレームコンテスト(こちらは開催中!)など、「お絵かきコンテスト」がたくさん開催される!ということで、画材を¥800ご購入いただいた方へ8つ切画用紙を2枚枚までプレゼント。コンテストに出してもよし、おうちで楽しんでよし!ですが、8月27日・28日のサマフェスにお持ちいただける!でも嬉しいです!8月1日から作品の募集を始めておりますので、小学生以下のお子様はふるってご参加ください。お待ちしております!

ちよこつと豆知識 今さらちょっと聞きにくい 『暑中お見舞い』の正しい時期・書き方



年賀状は出すけど、暑中見舞いはもう出さないという方、多いんじゃないでしょうか。しかし!「暑中見舞い」は、猛暑期に「普段なかなか会えない方やお世話になった方の健康を気遣い壮健に過ごして欲しいとの願いを届ける夏のあいさつ状」。そうです、「今、このコロナ禍にピッタリ」なんです!

暑中見舞いの習慣は、江戸時代にお盆に里帰りする際、直接、品を持参して祖先の霊に捧げていたことが由来といわれています。そこからお世話になっている人全般への贈答の習慣になっていきました。遠方で訪問できないお宅には、飛脚便を使って贈り物や書状を届けていました。

それが、明治6年の郵便制度の発達とともに、この贈答の習慣が簡素化されあいさつ状を送る習慣になっていき、大正時代に現在の「暑中見舞い」という形が定着しました。

「暑中見舞」を出す時期は二十四節気の「小暑(7月7日頃)」～「立秋の前日(8月7日頃)」にかけて送るのが通例です。「残暑お見舞い」は立秋(8月8日頃)～8月末頃までに、遅くても「処暑の候(9月7日頃まで)」に届くように送みましょう。実際の暑さより暦が基準になります。

久しぶりに暑中お見舞い(残暑お見舞い)、出してみませんか。(参照:日本郵政HPより)



stationery goods
BUNseido

株式会社 文盛堂

TEL 042-752-2303(代表)

042-752-1104(店直通)

FAX 042-755-5117

〒252-0237

相模原市中央区千代田 6-1-18

U R L <http://www.bunseido.net> MAIL bunseido@bunseido.net

ショップカードもあります

LINE

@wdi0003d

Instagram



@bunseido



Youtube チャンネル

ぶんちゃんねる

しんぶんちゃんの他にもこちらで最新情報をお届けしています!